

シンボル事業検討素材応募用紙

受付番号

1 全体のコンセプト		
<p>公共施設の再配置では、財政的、管理・運営上の問題を優先するあまり、近代的なテクノロジーや未来への希望などを否定(我慢)し、プレモダンな考え方に戻ってしまうことが問題です。今までの公共施設では、機能に見合う空間相互が明快な関係を持って配列されることによって成立していました。しかし現代の都市や社会を成立させてきた単位やプログラムの概念は、情報ネットワークなどの発達に伴って大きく変化しつつあります。</p> <p>家族の単位、公共建築の完結的プログラムの概念、都市空間のゾーニングの概念などはもはや破綻しつつあり、それぞれに自立した境界を保持できずに溶融しつつあります。</p> <p>学校や公民館などの公共施設が地域の生涯教育の拠点となり、地域コミュニティの中心としての役割を果たすためには、相互のプログラムが溶融し、様々な人が交流する風景が展開される「開かれた空間」をつくることが重要だと考えます。</p>		
2 複合施設及び敷地内外の複合化の概要(規模、機能、建設・管理の主体等)		
<p>①中学校の特別教室と公民館の積極的な施設の重ね合わせ(施設の複合化)</p> <p>②西側の道路沿いに事務室や会議室、音楽室(視聴覚室)、調理室などを道路沿設け、見る見られる賑やかな風景をつくる。</p> <p>③消防署の訓練場を屋上に設け、武道場も共有し地域に開かれた消防署をつくる。</p> <p>④南側は増築スペースとして担保(一時的にテニスコートとして整備)。</p> <p>将来の小中一貫校、老人施設や子育て支援施設など社会情勢に柔軟に対応できる余白を確保しておく。</p>		
3 セールスポイント(費用対効果、スケジュール、手法、技術上の工夫等)		
<p>①特別教室と公民館施設の積極的な重ね合わせと減築</p> <p>将来的には既存校舎内の特別教室を全て西側の共有部分に設け、既存校舎を減築します。工事費や管理運営費の大幅な削減が期待されます。</p> <p>②フレキシブルな設計</p> <p>住宅地に面した沿道に複合施設を面して配置し、街に開かれた施設とします。この部分は経済的なスパンで計画され、将来的な模様替えにも柔軟な対応ができる計画にします。</p> <p>また、近い将来の中学校改築時に特別教室を全て沿道に配置し、さらなる公共施設とのカップリングも含めたフレキシブルな対応を検討します。</p>		
4 利用者及び学校教育活動に配慮した点		
<p>①特別教室と公民館施設の複合化は、施設の重ね合わせによる効率化だけでなく、コミュニティスクールや生涯教育の拠点に柔軟に対応することが可能です。</p> <p>②特別教室と公民館施設の積極的な重ね合わせは、設備機器等の共有化、効率的な設備機器の導入、更新頻度の短縮化を実現し効率的な投資が可能となります。</p> <p>③生徒の教室間移動は、西側複合施設内で行われるため、日常的に地域の人々と接する機会が生まれ、相互に学び合い・教え合う機会をつくることができます。</p> <p>④忠魂碑はスクールモールと一体的に整備し、学校のアプローチとしてふさわしい顔をつくります。国道側校門は車専用の入り口とし、駐車場と一体的に整備し歩車分離を実現します。</p> <p>⑤スクールモールや西側複合施設を通して積極的に街に開き、地域の人々が寄りつきやすい環境をつくります。</p>		
<p>要項の内容を熟知し、検討素材として採用された場合は、その内容が氏名等とともに公表されることに同意のうえ、上記のとおり応募します。</p>		
応募者の氏名又は法人名	有限会社 ツナミデザイン 加藤峰雄	
応募者の住所又は所在	150-0001 東京都渋谷区神宮前4-2-22 #102	
連絡先	電話	03-5410-0447
	メール	kat@tsunami-d.com

I. 中学校と公民館が生涯教育の拠点となる

現状の中学校は、高低差があり交通量の多い国道に面しているため、地域に対して閉じた施設になっています。

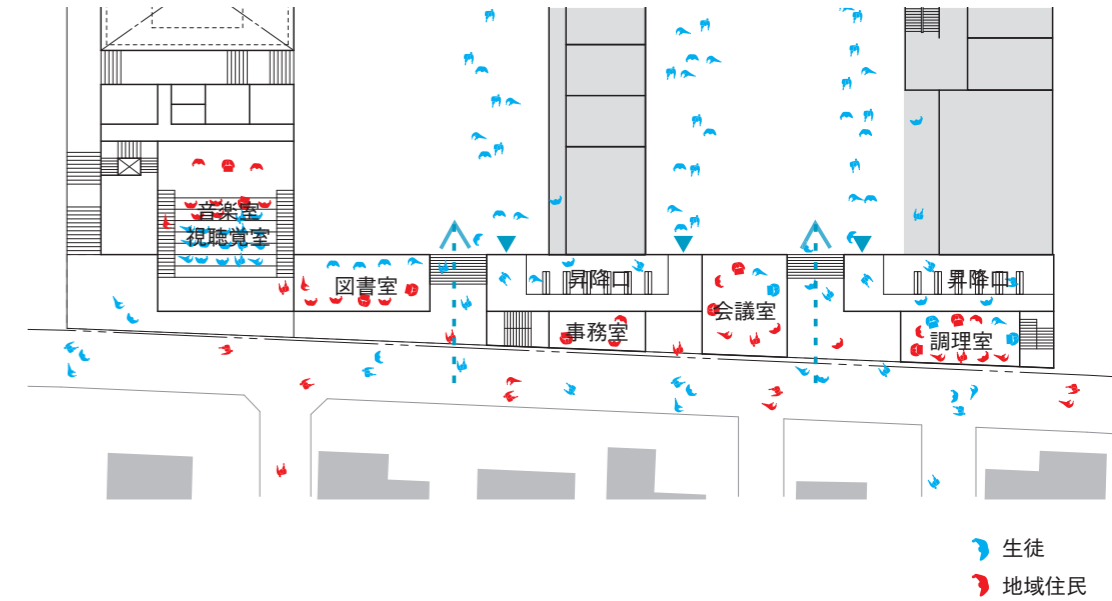
公共施設が将来にわたって持続可能な量から質への転換を図るためには、中学校が生涯教育の拠点として公民館と一体となって地域に開かれ、中学校と公民館の施設が重ね合わせながら共存してゆくことが重要だと考えます。

学校が、子供たちの学ぶためだけの空間から、多様な役割を備えた社会性のある空間へと変わること。子供たちに社会との接点をもつ経験を与えること。閉じた学校から開かれた学校へ、施設の開放、重ね合わせを通して精神的にも開かれた施設を目指します。

II. 地域の活動を街に開く - 地域の活動が公民館をつくる -

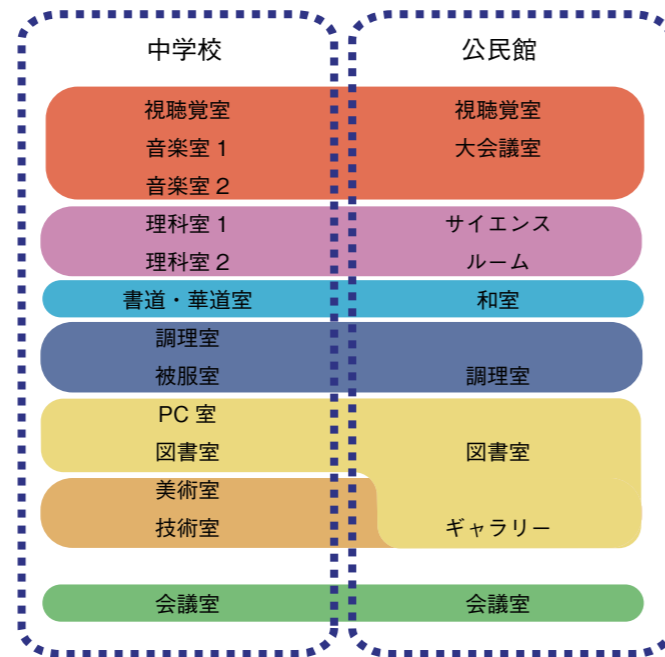
ほとんどの文化施設が、一部の人のみ利用されています。多くの人はその外観を知るのみで内部の様子を知る人は少ないのです。施設を街に開き、アクティビティが街にあふれ出すことが地域に活気を生みます。

このような活動が、地域コミュニティをつくり高齢化社会のセーフティーネットとしての公民館をつくることができると考えます。



III. 施設の重ね合わせ

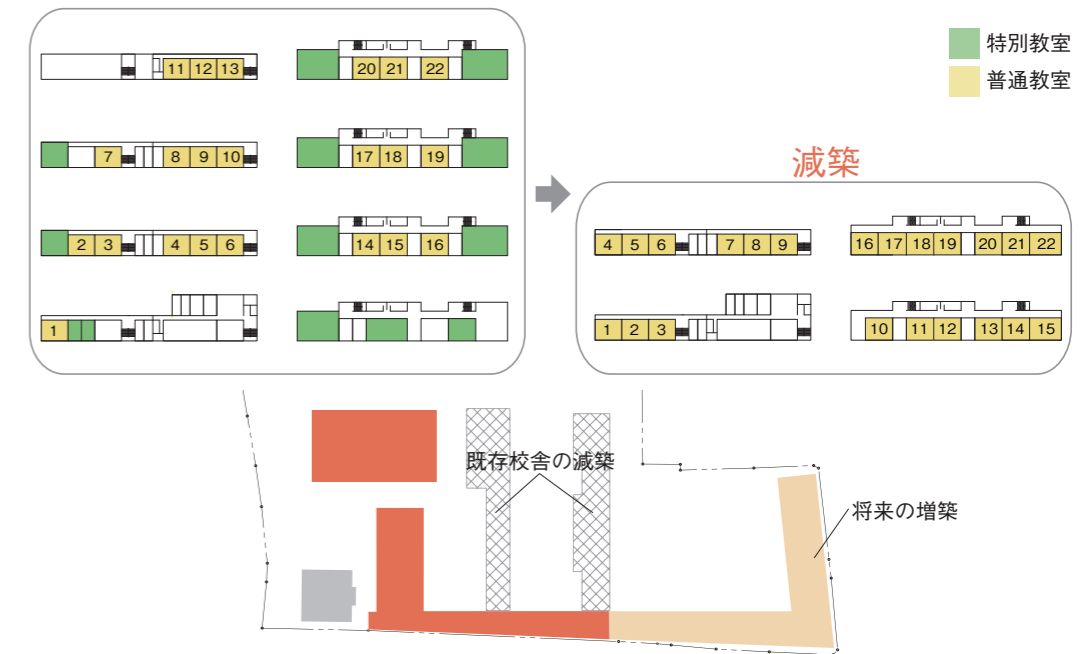
公共施設を有効利用するために「施設の重ね合わせ」を提案します。中学校の特別教室の空き時間を有効利用し公民館施設との相互利用を積極的に行います。設備の充実が行いやすくなり、地域住民と中学校とのワークショップや発表会、学び合いなどの活動が期待されます。中学校と公民館が積極的に連携して施設運営を行うような地域住民の協力も不可欠です。



IV. 減築を視野に入れた将来計画

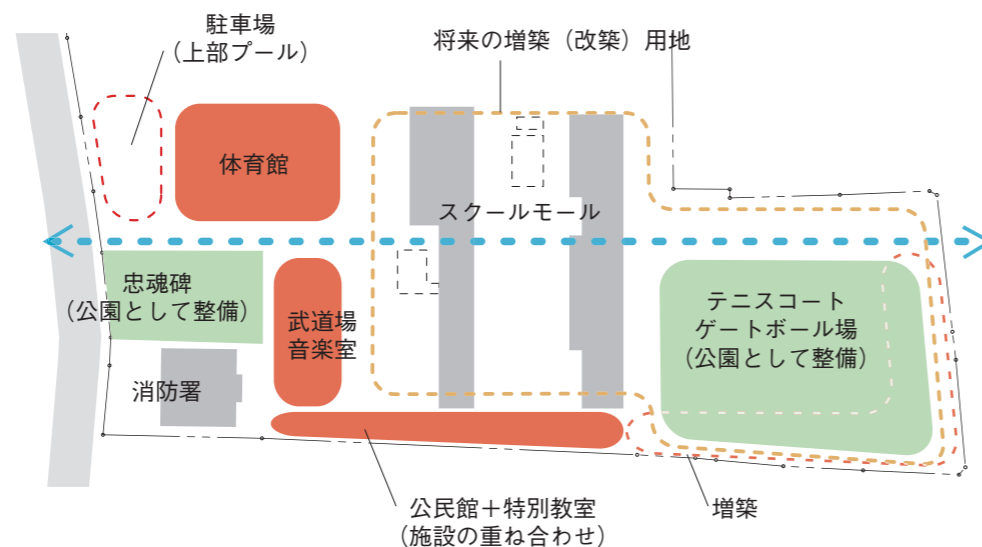
今後の少子高齢化と公共施設の再配置の必要性から、必要な施設は更新しながら既存の施設をうまく利用してゆく方法が必要です。

- ①特別教室と公民館施設の重ね合わせによる有効的な施設利用
- ②特別教室を重ね合わせることで、投資の選択と集中を促す。
- ③既存校舎の特別教室の一部が不要となり、4階を3階に減築することで耐用年数を延ばすことが可能。



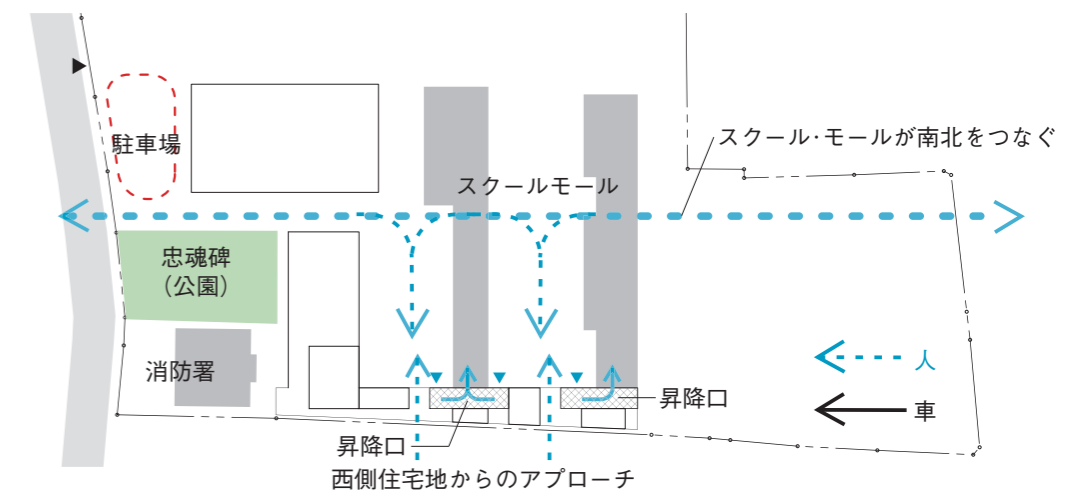
V. 敷地利用計画

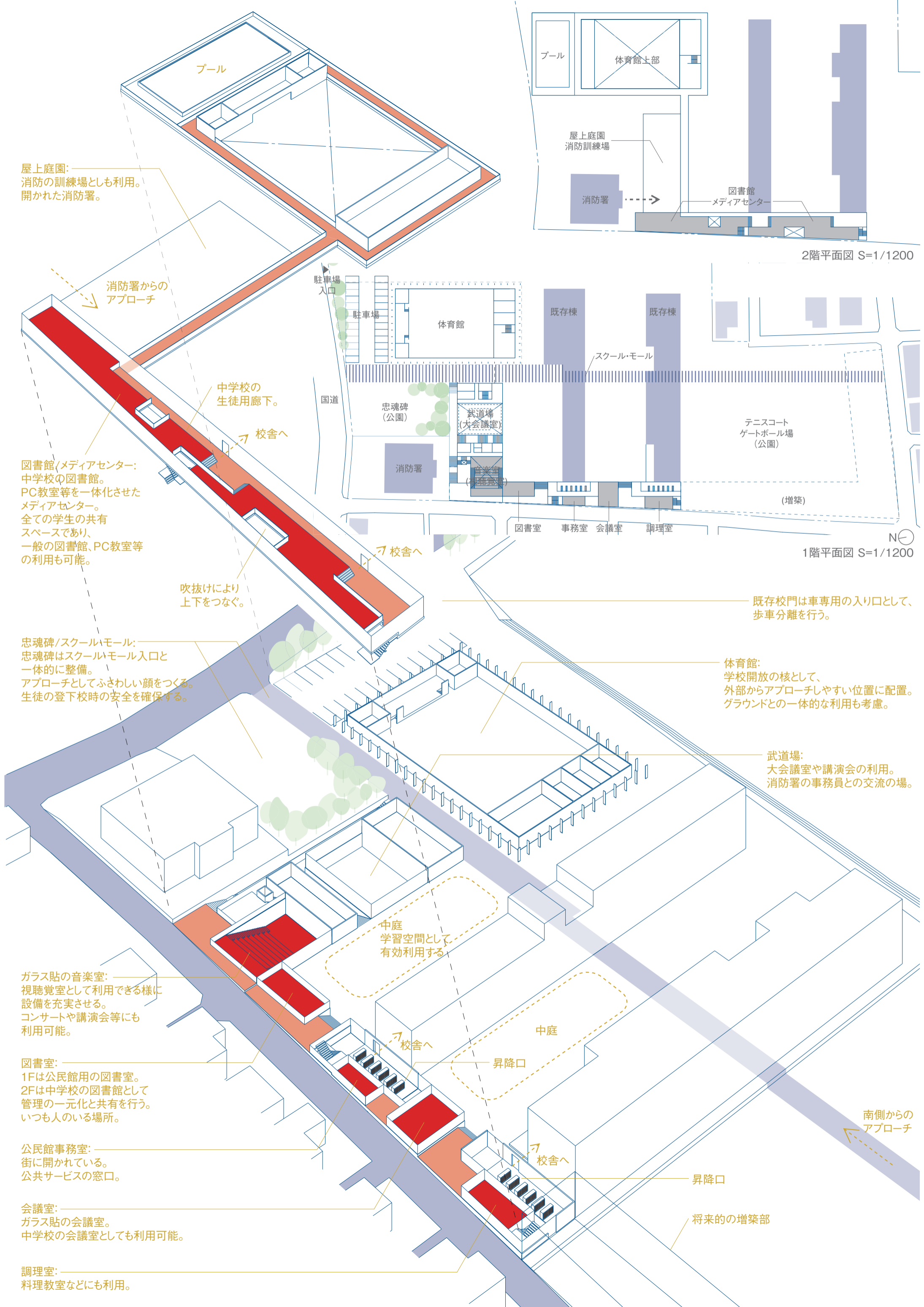
既存中学校の建て替え、公民館の拡張、またコミュニティセンターの充実、小中一貫校への対応など将来のフレキシブルな計画の対応が可能な敷地利用計画を行う。具体的には、①北側に体育館、プール、武道場など体育施設を集約し、地域開放時に管理が行いやすいようにまとめる。②東側に「地域に開かれた公民館」を設け、にぎわいのある風景を生む。③南側はテニスコートやゲートボール場、公園として整備し、将来の増築用地として担保する。



VI. アプローチ

忠魂碑を公園としてアプローチと一体的に整備します。地域の核施設としてふさわしい風景をつくれます。南北をつなぐスクールモールは歩行者専用とし、南側住宅地からのアプローチにも配慮します。自動車のアプローチは現在の校門から行き、歩車分離とします。





屋上庭園:
消防の訓練場としても利用。
開かれた消防署。

消防署からの
アプローチ

中学校の
生徒用廊下。

校舎へ

図書館/メディアセンター:
中学校の図書館。
PC教室等を一体化させた
メディアセンター。
全ての学生の共有
スペースであり、
一般の図書館、PC教室等
の利用も可能。

吹抜けにより
上下をつなぐ。

忠魂碑/スクールモール:
忠魂碑はスクールモール入口と
一体的に整備。
アプローチとしてふさわしい顔をつくる。
生徒の登下校時の安全を確保する。

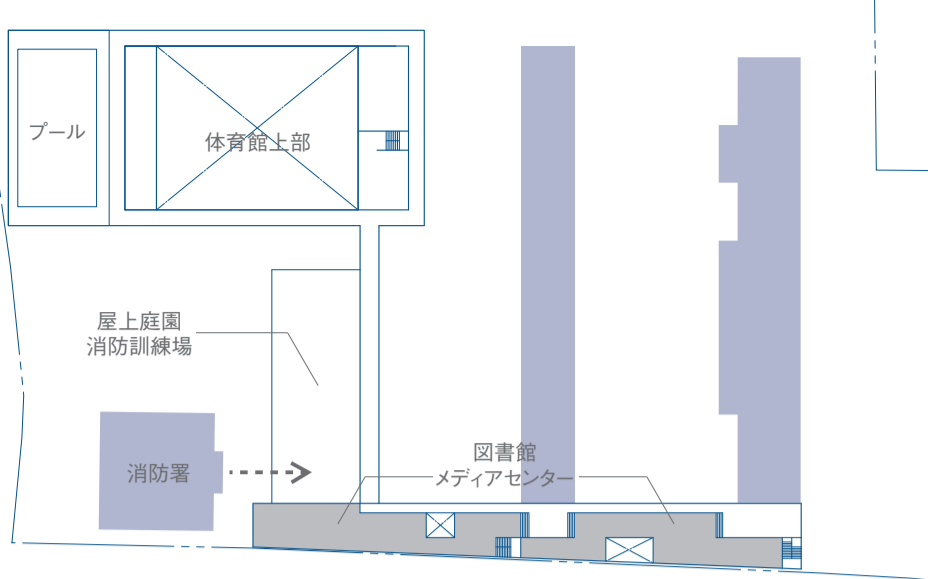
ガラス貼の音楽室:
視聴覚室として利用できる様に
設備を充実させる。
コンサートや講演会等にも
利用可能。

図書室:
1Fは公民館用の図書室。
2Fは中学校の図書館として
管理の一元化と共有を行う。
いつも人のいる場所。

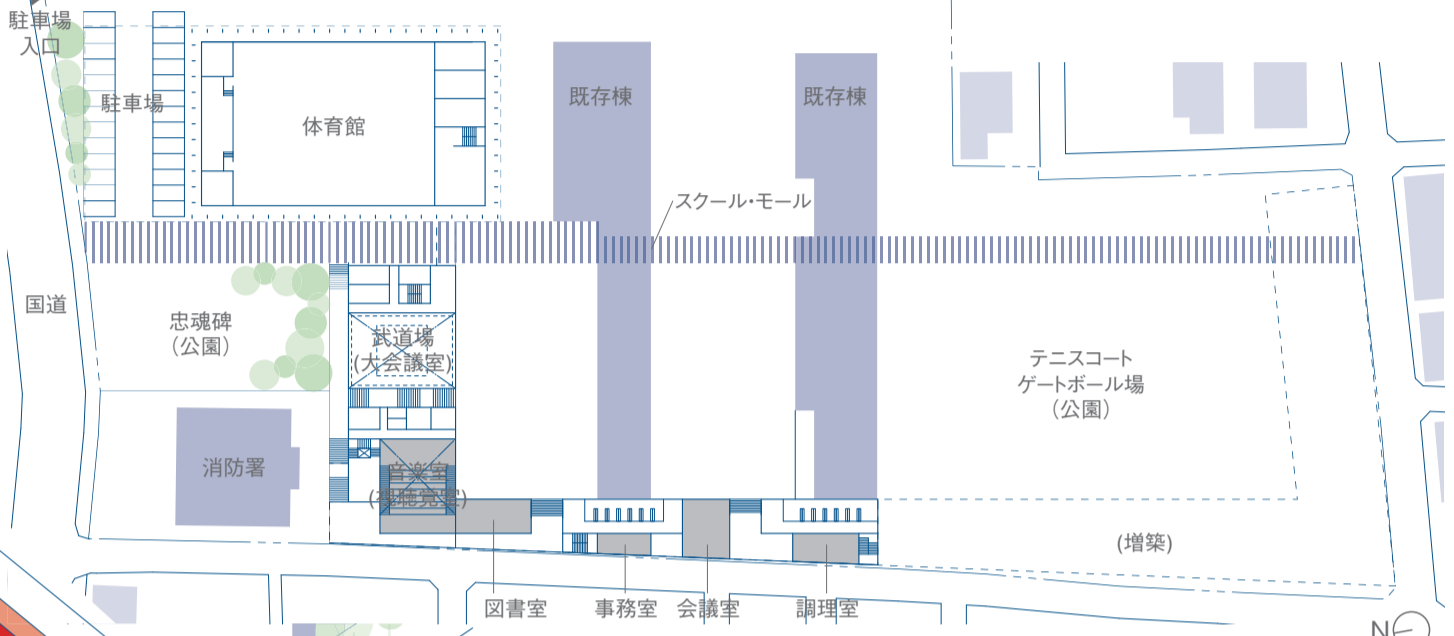
公民館事務室:
街に開かれている。
公共サービスの窓口。

会議室:
ガラス貼の会議室。
中学校の会議室としても利用可能。

調理室:
料理教室などにも利用。



2階平面図 S=1/1200



1階平面図 S=1/1200

既存校門は車専用の入り口として、
歩車分離を行う。

体育館:
学校開放の核として、
外部からアプローチしやすい位置に配置。
グラウンドとの一体的な利用も考慮。

武道場:
大会議室や講演会の利用。
消防署の事務員との交流の場。

中庭
学習空間として
有効利用する

中庭

校舎へ

昇降口

校舎へ

昇降口

昇降口

将来的増築部

南側からの
アプローチ